

香川大学教育学部 附属教育実践総合センターニュース

No. 30

平成 21 年 9 月 30 日発行

目 次

特集 平成 21 年度教育実践総合 センター事業について	1	附属高松中学校教育研究発表会報告	5
センター事業計画	2	第 1 回 (5・6 月期) 教育実践集中講座報告	6
研究プロジェクト	3-4	退任・着任のご挨拶	7-9
附属坂出小学校との合同研究集会	4	センター活動報告・寄贈図書	10-11
		教育実践総合研究第 20 号 原稿募集	12

特集 平成 21 年度 教育実践総合センター事業について

センター長 七條 正典

本年 4 月より教育実践総合センター長に就任しました。前センター長同様、よろしくお願ひ致します。

7 月に開催された管理委員会で、平成 21 年度のセンター事業計画が認められました。センター事業の主要な 1 つの柱である研究プロジェクトは、「教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による支援の在り方に関する研究」について行うこととなりました。昨年度末より、企画推進委員の先生方と協議しながら、学部教員と附属学校教員とが協働して取り組めることや新たな教員養成に向けられた課題等を踏まえこの研究テーマとなりました。学部、附属学校の先生方のご協力をいただき、進めて参りたいと存じます。何卒よろしくお願ひ致します。

本年度は、客員教員（客員教授）として、昨年に引き続き香川県教育会館館長の好井貞夫先生と、新しく香川県教育委員会義務教育課主任指導主事の江口俊史先生にお願ひすることになりました。すでに 5 月、6 月に第 1 回教育実践集中講座を担当していただき、教育法規、学校経営、学級経営、生徒指導等、具体的事例を取り上げながら学生に対してわかりやすいご指導をいただきました。また、教員採用を前にした 4 年生に、模擬面接や模擬授業等、具体的で実践的なご指導をいただきました。

平成 25 年度からは、教員養成の質保証を目指し、「教職実践演習」が新設され実施されます。現在、ワーキンググループでその実施体制や「履修カルテ（仮称）」等について検討されているところですが、先の研究プロジェクトにおける検討も含め、教員養成の充実、また教員の資質能力の向上等、教育実践総合センターの果たす役割とも大きく関わると存じます。どうか本年度のセンター事業の運営・推進にご協力・ご支援のほど、何卒よろしくお願ひ致します。



センタートピックス ~おしらせ~

附属教育実践総合センター

ホームページ リニューアル OPEN!

サーバ移行に伴い、当センターホームページをリニューアルしました。センターの活動(事業)の様子などをこれまで以上に迅速に掲載・発信していきたいと思ひます。

URL が変更になりました

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>

※記事については、掲載文・写真肖像権の関係機関承諾の為、掲載時期がずれることがあります。ご容赦願ひます。

※ホームページに掲載されている情報の一部は、このセンターニュースにも紙面掲載し、お知らせします。

平成 21 年度 教育実践総合センター事業計画

I 研究プロジェクト

教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による
支援の在り方に関する研究プロジェクト

II 指導プロジェクト

1. 教員養成
(1) 「教育実践演習」「教育実践基礎演習（フレンドシップ事業）」の担当
(2) 教育実践集中講座
2. 教員研修
教育学研究会、軽度発達障害研究会、予防的教育相談研究会、
道徳教育研究会の開催
3. 教育相談
(1) 教師のための相談活動（学習指導、生徒指導等）
(2) 教育相談活動
4. 共通教育・学部・大学院関連授業科目及び卒論・修論指導

III 教材・資料の収集・管理・共同利用

1. 研究資料（他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物）等の収集・管理
2. 教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
3. 特殊装置の有効利用のための整備
4. 学習コンテンツの収集

IV 研究活動の報告等

1. 「香川大学教育実践総合研究」の編集
2. 教育実践集中講座資料集の発行
3. フレンドシップ事業実施報告書の発行

V 広報活動

1. インターネットのサイト（ホームページ）の更新・管理
2. センターニュース（年2回程度）
3. 教師教育用映像情報のVOD配信サービス
4. パンフレット・リーフレットの改訂・発行等

VI 講演会・研究会等の開催

1. 公開講演会
2. 教育実践総合センター研究会
3. その他

VII 関係機関との連携

1. 研究プロジェクト・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
2. その他 地域の各機関との連携
(1) 香川県教育委員会
(2) 香川県教育センター
(3) 高松市教育研究所

等

研究プロジェクト

1. 平成 20 年度 実施報告

(1) 授業づくり・授業改善に向けた教師の「評価力」の向上に関する研究プロジェクト

平成 20 年度は、前年度の研究成果を踏まえつつ、教師が自分の授業を客観的に捉えること（メタ認知）と、あらたな改善策を見出していくこと（授業改善）ができるような校内研修（校内授業研究）の在り方を、実践を通して明らかにしてきました。各附属学校でのこれまでの校内研修を生かしつつ、他の附属学校の取り組みや県教育センターの研究成果、また 11 の要素から構成されたシート（センター案）を参考にして、各附属学校の独自性（研究テーマ）にそったかたちで、これまでの校内研修・授業改善の取り組みを再確認するとともに、一般化（共有化）できる視点の抽出とその検証を行いました。

研究成果については、本年度中に公開いたします。

（文責：山岸 知幸）

(2) 『わかる授業』のための メディア活用に関する研究プロジェクト

附属学校園の教員、本学教育学部教員、ならびに香川県教育センターが連携し、プロジェクトチームを構成して、「情報メディアをどのように活用すれば、学習者（児童生徒）にとって、より『わかる授業』に繋がるのか」を中心テーマに、一昨年度(2007 年度)より研究プロジェクトを推進してきました。

平成 20 年度は、平成 19 年度末～20 年度当初に実施した、附属学校園の教員を対象とした質問紙調査の結果より明らかとなった、授業が「わかる授業」になるための要素（条件）を手がかりとしながら、実際に「情報メディアを活用した『わかる授業』づくり」（授業実践）を行いました。

（なお当該質問紙調査の結果については、香川大学教育実践総合研究(2009 年 第 18 号)『『わかる授業』とメディア活用に関する教師の意識（第一報）』において研究の一端を報告しています。）各附属学校園の先生方に、「教科を限定しない」「普段の授業の中でのメディア活用」を共通の授業イメージとしながら、情報メディアを活用した「わかる授業」実践を開発・実施していただきました。一例として、附属高松小学校では、算数科におけるパソコン活用実践・国語科におけるデジカメ活用実践を、附属坂出小学校では、プレゼンテーションソフトウェアを用いた総合的な学習の時間(情報)の実践を、また附属特別支援学校小学部では、パソコン(タッチパネル)を用いた生活単元学習の実践を、それぞれ開発・実施していただきました。

なお本プロジェクトは、平成 21 年度、「わかる授業のためのメディア活用実践研究会(教育工学研究会 別称)」として研究を継承し、附属学校の先生に引き続き実践開発・実施をすすめていただいています。今後、上記実践の記録 VTR 等を基に、教員養成のための『『わかる授業』のためのメディア活用、ここがポイント!』（仮題）の教材化をすすめる予定です。（文責：松下 幸司）

(3) 試行プロジェクト「教育実習支援プロジェクト」

附属学校園の教員と本学教育学部教員(以下「大学教員」)が連携し、教育実習期間中の学生に対する指導助言を行う体制・環境整備の試行支援として、試行プロジェクト「教育実習支援プロジェクト」を実施しました。平成 20 年度は特に教育学部から遠方の教育実習校の 1 つ、附属坂出中学校における教育実習生(社会科配属学生)に対して、中学校に隣接する当センター坂出分室(坂出市青葉町)と教育学部(高松市幸町)を結ぶ遠隔テレビ会議システムを用いて、大学教員が実習中の指導助言を行いました。具体的には、実習授業日の放課後、実習生グループと大学教員がテレビ会議システムを介して授業討議会をもち、その日の実習授業を記録した VTR 映像を坂出側から教育学部に配信し、学生と大学教員がその映像を同時に視聴しながら、学生が振り返り・討議を行い、大学教員が指導助言・アドバイスを行いました。

試行プロジェクトに関わっていただいた大学教員・附属学校教員に対する事後質問紙調査において、「指導により学生の不安な気持ちが解消されていたように思う」「いろいろな見方を知り、(学生が)迷うこともあるが、工夫しようとする」「学生同士での授業の反省会などは、見ていただくのはいいことだと思う」「TV 会議システムは悪くないと思いますが、基本は直接指導だと思います」などの意見が寄せられました。今回の遠隔テレビ会議システムを用いた大学教員による教育実習中の学生に対する支援によって、学生自身の指導のポイントを明らかにし、次の授業づくりに意欲・自信をもって繋げるための有効な授業内容ならびに指導方法などの検討機会となったと

思われます。一方、附属学校教員による直接指導を主としながら、大学教員がその指導を側面からサポートできる環境としての“TV会議システムを用いた遠隔支援”の在り方について検討を加え、平成21年度以降の研究プロジェクトに繋げていきたいと考えています。（文責：松下 幸司）

2. 平成21年度 概要(計画)

教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による

支援の在り方に関する研究プロジェクト（2年）

教職を目指す学生たちにとって、教育実習は、学校現場に関わることを通して教師に求められる基礎的な力を身に付けることのできる場であり、また同時に自身の適性を再確認できる場でもあります。それらを保障するために、これまで教育実習及びその事前事後指導のカリキュラムやシステムについて、様々な検討が行われ、現在のかたちになっています。学生の要望や指導する教員の意見を取り入れつつ、今一度学生の視点に立った、すなわち学生の学びの充実につながる教育実習の在り方やそのための支援の在り方について検討していくことが重要です。

そこで本研究では、「教職実践演習」をも視野に入れ、これまでの事前指導や事後指導の内容や学部における支援体制、事前事後指導を含む教育実習評価の在り方、学部と附属学校園との連携による支援体制の在り方等について、幅広く再検討するとともに、学生が教師としての自己を見つめ、実践的な指導力に向かう基礎的な力を身に付けることができるような教育実習の在り方、またそのための支援の在り方について研究を行います。

第1回会合を8月27日に開催しました。学部と附属学校園から合わせて41名のご参加をいただくことができました。ありがとうございました。今後、研究の進捗状況については、随時、報告いたします。（文責：山岸 知幸）

附属坂出小学校との合同研究集会

平成20年6月1日（月）、香川大学教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会が開催されました。これまでは2月の第1週に合同研究集会を行っていましたが、教育研究発表会が1月に変更になったことに伴い、本年度からはこの時期の開催となりました。

坂出小学校では、昨年度までの研究成果を踏まえ、本年度より『「知の更新」を図る思考力の育成（1年次）－言語活動の充実と学ぶ集団づくり－』を研究テーマとして掲げ、研究を進めていくところです。当日は、第3学年の国語科「紹介しよう えさをとるくふう－自然のかくし絵－」の研究授業を公開していただき、それを踏まえつつ、活発な意見交換が行われました。



まず、坂出小学校から研究テーマについて報告がなされ、質疑応答の後、大学教員からさまざまなアドバイスが出されました。次に、授業リフレクションに進み、研究テーマとのかかわりを問いながら、授業討議を行いました。これまで以上に活発な討議となり、気づけば終了時刻をむかえていました。学部教員にとっても坂出小学校の先生方にとっても、学ぶべきことが多い、有意義な会になったと思われまます。

「思考力」に焦点を当てた継続研究としての新しい取り組み、その中での、現在重視されている「言語活動の充実」や「学ぶ集団」の在り方をも視野に入れたこの研究には、今後大きな期待が寄せられると思います。（文責：山岸 知幸）

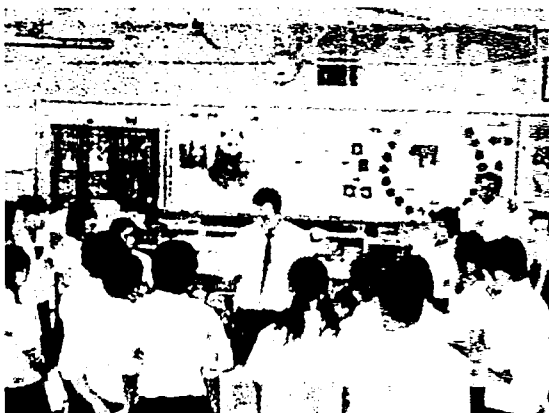
附属高松中学校 教育研究発表会 報告

香川大学教育学部附属高松中学校

平成 21 年度研究発表会を 6 月 12 日（金）に開催しました。本校では平成 20 年度より文部科学省研究開発学校の指定を受け、研究主題「新しい時代の学びを拓くー総合教科『未来志向科』と必修教科による教育課程の研究ー」のもと、新しい教育課程について全体提案を行うとともに、各教科及び未来志向科の授業を公開しました。また、文部科学省生涯学習政策局政策課課長補佐の吉田光成先生を迎え、本校の研究についての助言をいただき、早稲田大学教授の安彦忠彦先生からは「新学習指導要領下の教育課程編成の方針」と題してご講演をいただきました。本校が進めようとしている新しい教育課程の在り方について多くのご示唆をいただくことができました。なお、発表会当日には県内外からたいへん多くの先生方及び教育関係者の方にご来校いただき、授業後の研究協議では活発な意見交換がなされ、今後の研究及び授業について貴重なご意見を賜ることができました。以下、本校での研究の内容について簡単にご報告いたします。



本校では、生徒の現状を把握したうえで常に未来を見据え、これからの時代に必要な教育とは何かという視点を持ち続け、教育課程の研究に取り組んできました。しかしながら現在の社会は予想していたよりも速いスピードで、しかも複雑さを増し、多くの問題を私たちに投げかけています。それだけにこれからの生徒には広い視野で考え判断したり、自分の行動を決めたりするといった資質・能力の育成がこれまで以上に必要不可欠となってきました。そこで、教科横断的な内容を扱う「総合的な学習の時間」に着目し、これからの時代に求められる資質・能力を育む総合教科「未来志向科」を設立しました。そこでは既存の各教科の枠を超えた今日的な課題について学ぶとともに、「未来志向科」と既存の各教科を内容及び資質・能力の双方で相互に関連させた教育課程の開発を目指しているところです。



今後は、「未来志向科」と既存の各教科との関連と役割についてさらに研究を進め、教育課程全体での位置づけを明確化するとともに、「未来志向科」の評価について研究を進め、実践していく中での問題点を明らかにし、改善を行います。また、「未来志向科」の構造についても学習内容の系統化を図り、必要なものは教材化して取り入れるとともに、新しい教科として既存の各教科との違いと共通点を明確にしていきたいと考えています。

第1回(5・6月期)教育実践集中講座 報告

夢へのチャレンジ ～本気で教師を目指す人のために～

附属教育実践総合センター 客員教授 江口 俊史

「おはようございます。」7月19日の早朝、何人かの集中講座で知り合った学生さんが元気にあいさつをしてくれました。香川県公立学校教員採用選考試験当日、それぞれ不安と希望に満ちた表情で、試験教室へと消えていく姿を見ながら、健闘を祈るとともに、6月に行った3講座での彼らの姿を思い起こしていました。

「教育法規入門」の集中講義の中で、生徒指導関係の教育法規を、学生さんの意見を聞きながら具体的事例について考えました。第1回は、「体罰、懲戒、出席停止」について、「学校教育法11条・35条」や「学校教育法施行規則第26条」を紹介しながら、私が経験した事例から、子どもたちとの信頼関係について考えました。以下講義後の感想です。

今日の講義を通して、一番大事なことは「生徒との信頼関係」を築くことだと思った。そのためには、生徒を信じる気持が不可欠だと感じた。問題行動を起こす生徒を頭ごなしに否定したり、体罰で圧力をかけるのではなく、心で向き合って生徒に接したいと思いました。

(6月6日教育実践集中講座 受講生アンケートから)

第2回は、「いじめ・不登校問題」について、香川県教育委員会が出している「先生、見逃さないで子どもが示すシグナルを～不登校への対応と未然防止に向けて～(平成17年2月)、～いじめへの対応の在り方～(平成19年3月)」を使用して、命の大切さについて考えました。以下講義後の感想です。

不登校やいじめは、学校においてよくあることなので、基本的な内容や対応の仕方を知れてためになった。命を大切に教育はとても難しいと思う。体験を通じたものは子どもの心に深く響くのではないかと思った。

(6月20日教育実践集中講座 受講生アンケートから)

第3回は、「携帯電話、校則、児童虐待」について、「児童虐待防止等に関する法律」や「学校教育法施行規則第3・4条」を紹介しながら、児童・生徒を取り巻く現代的な課題について考えました。以下講義後の感想です。

具体的な事例や判例を交えてお話を下さり、とてもわかりやすく、また想像しやすかった。携帯に関するトラブルや犯罪は認識のなさや、危険意識のなさが問題の一つだと思う。自分たちの世代における感覚だけで対応するのではなく、先輩方に学び、新しいことに敏感になることも必要だと思う。

(6月27日教育実践集中講座 受講生アンケートから)

彼らが、来年の春、どこかの学校で子どもたちと出会い、師弟のきずなを結ぶことを想像しながら、子どもとの人間的触れ合いの大切さを改めて考える一日となりました。

退任のご挨拶

■ご挨拶

西原 浩 (前 センター長)

本年3月、附属教育実践総合センター長を退任しました。4年間の在任中にはいろいろとお世話になりありがとうございました。センター長を拝命するまでセンターの業務にはあまり関わったことがなく、職務を全うできるかどうか不安でしたが、センターの教職員始め、関係の皆様方のご協力のお陰で、無事務めることができました。全国国立大学実践センター関連協議会等に参加して、全国的なセンターの動向や直面している課題を肌で感じることができました。今、学部と附属学校、県教育委員会をはじめとする地域の教育機関との連携共同の推進が一層強く求められている中、センターの役割は益々重要視されています。そのことを学部の先生方にもご理解いただき、センターの研究プロジェクトの参加など一層のご理解とご協力をいただきたいと念願しております。今後七條新センター長の下、センターが益々充実発展されますことを心よりお祈りいたします。

■お世話になり、ありがとうございました。

高松市立浅野小学校 久保 直人 (前 センター企画推進委員)

交流人事で教育学部に勤務した3年間の内、平成20年度の1年間だけ企画推進委員を務めさせていただきました。在任中には、教育実践総合センターの主催する各行事の検討に関わるとともに、自らできるだけ参加することで、多方面の教育情報を得ることができたことを感謝しています。現在は、高松市立浅野小学校の教頭として勤務しています。浅野小学校のある香川町は、平成18年に高松市に合併されるまでは香川郡香川町でした。地域の文化財として、高松市指定無形民俗文化財のひょうげ祭りが有名です。本校では、生活科や総合的な学習の時間にひょうげ活動として位置づけ、ひょうげ祭りの起源や願いについて調べたり、実際にひょうげ祭りを体験したりして、地域の人々の気持ちを大切に活動を展開しています。私も、9月13日(日)に行われたひょうげ祭りに参加し、メーキャップをし、約2kmの道のりをひょうげながら練り歩きました。新たな職場で、地域の方々とも協力しつつ、元気に頑張っています。

■だから教師はやめられない

三豊市立詫間中学校 教頭 安藤 紳一 (前 センター客員教授)

平成19、20年度の2年間、客員教授を務めさせていただきました。当時、義務教育課での多忙な生活の中で、香川大学での講義が唯一の楽しみでした。「主任指導主事」から「ハニカミ王子」に变身し、これまでの経験や教育への想いを熱く語りました。講義後の「教師になりたいという思いが強くなりました」という学生たちの言葉が、新たな意欲をかきたててくれました。

平成21年4月、4年ぶりの学校現場は新鮮でした。「教育は現場で行われている」ことを改めて実感しました。初めての管理職ということもあり、多少とまどうこともありますが、生徒たちの笑顔が明日へのエネルギーとなっています。

本校の生徒会スローガン『新志新風～新しい志で新しい風を～』は、今の私自身にも当てはまる言葉です。今後、「絶対に教師になる」という強い志を持ち、香川の教育界に新しい風を吹き込んでくれる若者が育ってくれることを祈っています。



■ 6年を振り返って

柴田 昭二 (前 附属高松中学校長)

はからずも6年もの間、附属高松中学校長の任をお引き受けすることとなり、大過なく全うできた(であろう)ことを関係する皆様方に感謝する気持ちで一杯です。この間に国立大学の法人化を最大の変革として、様々な変容が教育をめぐる行われました。校長として充分に対応をし舵取りができたのか、その評価は周囲と時とに委ねたいと思います。しかし振り返ってみれば、大学・学部の教員と附属学校園の教員との距離が近くなり種々の共同作業が行われるようになったこと、県教委・市教委その他の教育関係との連携が深まり目に見える実績を積み上げていることなど、この数年の間に改善されてきていることに実感を持っています。菲才で微力ながらその仲間に加われましたこと、そして皆様方と協力し、あるいは議論しながら過ごした時間は、私にとって貴重なものとなっています。今後もこの経験を活かして大学、学部および附属学校園の発展に微力を捧げる所存であります。皆様方に心よりのおん礼をもうしあげ、退任のご挨拶といたします。

着任のご挨拶

■ 企画推進委員着任にあたって

教職実践 山本 木ノ実

交流人事教員として最後の年に、教育実践総合センター企画推進委員を務めさせていただくことになりました。

これまで、フレンドシップ事業等に関わらせていただき、学生たちが子どもたちとのかわりに悩み、附属教員から学ぼうとする姿勢や夜遅くまで討論し合う姿を見て、学校現場と大学のパイプ役を担う教育実践総合センターの役割の大きさを身近で感じました。また、教育実習をより充実したものにし質の高い教員を養成するために、大学教員と附属教員が互いに意見を出し合い研究を進めていくプロジェクトにも参加させていただき、来年度から学校現場に戻る私にとって、とてもいい勉強の機会になっております。

香川大学教育実践総合センターの研究プロジェクトについては、学校現場にいる時から参考にさせていただいており、教員養成のみならず、現職教員の研修にも大いに役立っています。今年度は企画推進委員として、微力ながら教育実践総合センターの企画等に関わらせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 子どもたちから教わったこと

センター客員教授 江口 俊史

先日、14年ぶりに立派な営業マンとして働いている教え子と再会しました。卒業式には、問題があり式場へ入れなかった生徒でした。他の生徒と問題を起こすたびに放課後、彼の話を聞いていたことを思い出します。

当時、なぜこの子はこのような行動をするのかを考えながら話を聞いていただけで、何の指導もできていませんでしたが、その彼が、「中学校の時は、話を聞いてくれたのは先生だけやったわ。いっぱいそついですいません。」と話してくれました。

平成21年度は、新学習指導要領の移行期間の初年度であり、教育現場では、完全実施に向けた教育課程の編成と諸準備を行うことが喫緊の課題となっています。将来、教職を目指す大学生にとって、「生きる力」の育成という理念のもと編成される新教育課程の理解は重要なことですが、教員として、やがて出会う子どもたちの姿を通して、自らが教師として成長し、子どもとの人間的な触れ合いが教育の原点であることを伝えることができればと考えています。

■着任のご挨拶

附属高松中学校 校長 毛利 猛

この4月から、附属高松中学校の校長として着任しました。着任以来、はや半年近くが経ったこととなります。柴田前校長先生からは、「学校の流れに乗っていく、という感じでよいのです」というアドバイスを頂いておりましたが、当初私には、学校における時間の流れ方が怒濤のように感じられ、ただもう圧倒されておりました。最近になって少しずつ「流れに乗っていく」という感覚がもてるようになり、それに従って、行事などを楽しめるようになってきました。

附属学校の存在理由が厳しく問われています。多くの期待に応えていかねばならないと思いますが、まずは、附属高松中学校に通っている生徒たちの教育をしっかりと行っていくことを大事にしたいです。微力ながら力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

■附属高松中学校副校長 着任のご挨拶

香川大学教育学部附属高松中学校 副校長 末竹 路弘

平成21年4月1日付けで、附属高松中学校に着任しました。本校での勤務は今回で2回目となり、職責の重さに身の引き締まる思いであります。

さて、今年度は、第1期中期目標・中期計画の最終年度であり、次期中期目標・中期計画の策定の年でもあります。このような時期であるからこそ、前例にとらわれることなく、本校の役割をこれまで以上に強化していく覚悟です。具体的には、新しい時代に生きる広い視野を持った個性豊かな生徒の育成を基盤にしながら、先導的な教育研究、質の高い教育実習、モデル校としての地域貢献であります。我々はこれらの取組を通して、附属学校の存在意義を明確にしていきたいと思っております。そのためにも、大学・学部との連携が不可欠です。大学・学部教員と附属学校教員との組織的な連携を図りながら、附属学校の役割を果たしていく所存でありますので、関係各位のご支援・ご鞭撻の程、よろしく願い致します。

■着任のご挨拶

香川大学教育学部附属坂出中学校 副校長 寺岡 英郎

今年度4月に多度津町立多度津小学校より附属坂出中学校に着任いたしました。寺岡です。私は、平成元年から10年間本校に勤務しておりました。10年ぶりに再び本校に勤務することとなりました。大学でも以前、附属とともに勤務した懐かしい方々とお会いすることができました。なんだか投稿した『香川大学教育実践総合研究』は、また、身近な研究雑誌となりました。当初は昔と今が交錯する奇妙な思いがありましたが、最近では毎日の勤務も落ち着き、感覚を取り戻せるようになりました。しかし、この香川大学も法人化され、同時に附属を取り巻く情勢も変わり、やはり時代の流れを感じずにはいられません。「流行と不易」を自分なりにしっかり捉え、香川大学の良き風土の中で、今後も努力をしていきたいと思っています。どうか、よろしく願い申し上げます。

■着任のごあいさつ

教育実践総合センター 教務補佐員 幅田 真理子

このたび9月10日付けで、教育実践総合センター教務補佐員として着任いたしました。個人的にも、これからの学校教育の在り方について研究をしている最中であり、教育実践研究の最前線での執務に携わらせて頂けることを、心より感謝致します。さらなる教育実践現場の発展と充実に、微力ながら貢献できるよう、尽力して参りたいと思っております。どうぞよろしく願い致します。

センター活動報告 (2009/04~09)

- 4月10日(金) 第一回フレンドシップ実施専門委員会
- 4月20日(月) 第一回専任会議
- 4月22日(水) フレンドシップオリエンテーション
- 4月23日(木) 教育実践集中講座(第一回1回目)
- 5月13日(水) フレンドシップ事前研修
- 5月15日(金) 第一回企画推進委員会
- 5月25日(月) 第二回専任会議
- 6月3日(水)～4日(木) フレンドシップ野外教育体験活動(屋島少年自然の家)
- 6月6日(土) 教育実践集中講座(第一回2回目)
- 6月6日(土)～7日(日) フレンドシップ野外教育体験活動(五色台少年自然センター)
- 6月16日(火) 第一回編集会議
- 6月20日(土) 教育実践集中講座(第一回3回目)
- 6月22日(月) 第三回専任会議
- 6月27日(土) 教育実践集中講座(第一回4回目)
- 6月30日(火) 第二回編集会議
- 7月1日(水) 第二回企画推進委員会
- 7月8日(水) 第一回管理委員会
- 7月9日(木) 第二回フレンドシップ実施専門委員会
- 7月15日(水)～17日(金) フレンドシップ野外教育体験活動(国立室戸少年自然の家)
- 7月27日(月) 第四回専任会議
- 7月29日(水) フレンドシップ野外教育体験シンポジウム
- 8月27日(木) 第一回研究プロジェクト
- 9月7日(月) 第五回専任会議
- 9月18日(金) 第75回国立大学教育実践研究関連センター協議会
- 9月30日(水) 第三回フレンドシップ実施専門委員会

寄贈図書 (2009/03~09)

福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター講演会&懇談会報告書 テクニカルレポート No.17	福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター
鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第18巻	鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
平成20年度特別教育研究経費事業「県教育委員会との連携による新しい教員養成カリキュラムの開発・実施」	鹿児島大学教育学部
東京家政大学附属臨床相談センター紀要 第九集	東京家政大学附属臨床相談センター
東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要 第5集	東京学芸大学教育実践研究支援センター
中等教育研究紀要 第55号	広島大学附属中・高等学校
中等教育研究開発年報 第22号	広島大学附属中・高等学校中等教育研究開発室
岡山大学教育実践総合センター紀要 第9巻	岡山大学教育学部附属教育実践総合センター
群馬大学教育実践研究 第5号	群馬大学教育学部附属中学校教育臨床総合センター
鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 特別号5号	鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
群馬大学教育実践研究 第26号	群馬大学教育学部附属中学校教育臨床総合センター
平成20年度 年報 第1号	お茶の水女子大学人間発達教育研究センター
特色ある大学教育支援プログラム 平成17~20年度採択事業報告書	北海道教育大学
平成20年度弘前大学教育学部フレンドシップ事業報告書	弘前大学教育学部
弘前大学教育学部附属教育実践総合センター研究員紀要 第7号	弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター研究紀要 第18号	奈良教育大学 教育実践総合センター
eラーニング等のICTを活用した教育に関する調査報告書(2008年度)	メディア教育開発センター
現代GPフォーラム 教員育成のためのモジュール型コア教材開発	東京学芸大学教育実践研究支援センター
岩手大学教育学部附属教育実践総合センター 研究紀要 7号2008	岩手大学教育学部附属教育実践総合センター
心理臨床センター紀要 第7号	広島国際大学心理臨床センター
花園大学 心理カウンセリングセンター研究紀要 第3号	花園大学 心理カウンセリングセンター
総合教養教育センター ボランティアサロンの活動報告 第6号	名城大学総合教養教育センター
静岡大学教育実践総合センター 紀要 No.16 2008	静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
静岡大学教育実践総合センター 紀要 No.17 2009	静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
平成20年度 なごや科学リテラシーフォーラム活動報告書	名古屋大学 高等教育研究センター
奈良教育大学 教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」創刊号(第1号)	奈良教育大学大学院 教育学研究科専門職課程教職開発専攻

平成19-20年度 専門職大学院等教育推進プログラム 成果報告書	奈良教育大学大学院 教育学部専攻専攻職課程開発専攻
特別開発研究プロジェクト報告書	東京学芸大学 教育実践研究推進機構
滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター-紀要 Vol.17 2009 バイディヤ	滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター-紀要 第8号	長崎大学教育学部附属教育実践総合センター
高知大学 教育実践研究 第23号	高知大学教育学部附属教育実践総合センター
琉球大学教育学部 教育実践総合センター-紀要 第16号	琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
平成20年度フレンドシップ事業報告書	琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
免許状更新講習モデルカリキュラム(最終報告)	日本教育大学協会 免許状更新講習に関するプロジェクト
教育実践研究 第17号	福岡教育大学教育学部附属教育実践センター
ファカルティ・ディベロップメント研究報告書 教員養成大学としての教育のあり方(10)	福岡教育大学教育学部附属教育実践センター
教育実践総合センター 実践報告 No.52	福岡教育大学教育学部附属教育実践センター
教育実践ハンドブック-教育実習の手引き-(第3分冊)	福岡教育大学教育学部附属教育実践センター
佐賀大学 教育実践研究 第25号	佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
埼玉教育大学実技教育研究19	埼玉教育大学実技教育研究指導センター
熊本大学 教育実践研究 第26号	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
2008年度 熊本大学教育学部フレンドシップ事業 実施・成果報告書	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
千葉大学教育実践研究 第16号	千葉大学教育学部附属教育実践総合センター
平成20年度「子どもとのふれあい体験」実施報告書	富山大学人間発達科学部附属人間発達科学実践総合センター
第9回シンポジウム記録集-高等教育機関としての「教師教育」の質保証を考える	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
研究年報	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
教育実践研究 第3号	大阪教育大学 教職教育研究開発センター
教育実践総合センター-紀要 No. 28	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センターレポート 第28号	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
研究紀要 第17号	宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター
平成20年度 宮崎大学教育文化学部フレンドシップ事業報告書 「体験的活動」を通しての学び	宮崎大学教育文化学部
心理臨床事例研究 第5号	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター-心理教育相談室
香川大学大学院教育学部研究科 修士論文要旨集 第10号	香川大学大学院教育学部研究科
香川大学教育学部「来客からの留学生」報告書 2008	香川大学教育学部
琉球大学教育学部 障害児教育実践センター-紀要 第10号	琉球大学教育学部附属障害児教育実践総合センター
埼玉大学 教育学部附属 教育実践総合センター-紀要 No.8	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
京都教育大学附属教育実践総合センター 教育実践研究紀要 第9号	京都教育大学附属教育実践総合センター
心理相談研究紀要 第7号	神戸親和女子大学心理・教育相談室
愛知教育大学 教育実践総合センター-紀要 第12号	愛知教育大学教育学部教育実践総合センター
文部科学省教育改革事業 特別支援教育を核に実践的教育力養成を目指す教員養成改革事業(平成18年度~平成20年度) 報告書	愛知教育大学
特別支援教育を核に実践的教育力養成を目指す教員養成改革事業研究報告(平成18年度~20年度)	愛知教育大学教育学部教育実践総合センター
シンポジウム「学校教育の質を問う」報告書	東京大学大学院教育学部研究科 学校教育高度化センター
国立特別支援教育総合研究所 研究紀要 第36巻	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
鳥根大学 教育臨床総合研究 第8号 鳥根大学教育学部附属教育支援センター	
三重大学教育学部附属教育実践総合センター-紀要 第29号	三重大学教育学部附属教育実践総合センター
学校教育実践学研究	広島大学大学院教育学部研究科附属教育実践総合センター
平成20年度広島大学教育学部フレンドシップ事業 ゆかいな土曜日 実施報告書	広島大学教育学部フレンドシップ事業運営委員会
立正大学 臨床心理学研究 第7号	立正大学心理臨床センター
ルーテル学院大学 臨床心理相談センター-紀要	ルーテル学院大学 臨床心理相談センター
教育方法学研究 日本教育方法学応用 第34号	日本教育方法学会
現代GPフォーラム 教員養成のためのモジュール型コア教育開発	東京学芸大学
平成20年度 国立大学教育実践研究協議センター-協議年報	国立大学教育実践研究協議センター-協議会
岐阜大学教育学部 特別支援教育センター-年報 第16号	岐阜大学教育学部附属特別支援教育センター
愛媛大学教育実践総合センター-紀要 vol127	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター
兵庫教育大学学校教育研究センター-紀要 学校教育学研究 第21巻 2009年	兵庫教育大学 学校教育研究センター
平成20年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」1年次教育実習カリキュラム開発研究(第10年次)報告書 改組後の教育学部における教員養成教育の再出発	新潟大学教育学部附属教育実践総合センター 教育実習研究会
平成20年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」報告書 社会教育施設・団体と連携する「体験的カリキュラム」の開発研究-第12年次研究-	新潟大学教育学部附属教育実践総合センター 「フレンドシップ実習」研究会
平成20年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書 4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 「研究教育実習」の多様な展開(IV)	新潟大学教育学部附属教育実践総合センター 教育実習研究会
平成20年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書 新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施(第6年次)	新潟大学教育学部学校ボランティア派遣事業委員会 附属教育実践総合センター
平成20年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」第4回 キャリア教育研究 実施報告書	新潟大学教育学部附属教育実践総合センター
鳥取大学 生涯教育総合センター-研究紀要 第5号 2008年	鳥取大学生涯教育総合センター
鳥取県の生涯学習 2007年度鳥取大学地域貢献支援事業「地域生涯学習総合支援に向けた調査」報告書	鳥取大学生涯教育総合センター
2008年度鳥取大学地域貢献支援事業「地域生涯学習総合支援に向けた調査(2)」報告書	鳥取大学生涯教育総合センター
和歌山大学教育学部教育実践総合センター-紀要No. 19 2009	和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター
カリキュラム研究 第18号	日本カリキュラム学会
宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター-紀要 第32号	宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター



教育実践総合研究 第20号原稿募集!

『香川大学教育実践総合研究』第20号は、**11月30日(月)**原稿受付締切です。
以下投稿要領をご参照の上、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究投稿要領

1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教育実践総合センターの活動報告などを掲載する。

3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則としてワープロで作成し、ワープロ打ち出し原稿2と、原稿を保存したフロッピーディスク等を会議に提出する。

5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(20字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は査読を行い、会議においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。査読者については、会議において決定する。

(1) 採録 (2) 条件つき採録 (3) 返戻

8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附 則

本要領は、平成元年5月17日から施行し、平成元年4月1日から適用する。

附 則

本要領は、平成12年3月6日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

附 則

本要領は、平成19年4月1日から施行する。

香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース
(No. 30)

発行日 平成21年9月30日

編集発行 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 代表者 七條 正典

新URL <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/> E-mail jcen@ed.kagawa-u.ac.jp

〒760-8522 高松市幸町1-1 Tel. 087-832-1683 Fax. 087-832-1689